

- 日本学術会議に求められる役割、果たすべき機能について、どのような議論が行われ、今後どのような在り方を目指すのか。
 - * 外国アカデミーの役割については、どのようなファクトに基づいて比較分析を行ったのか？日本学術会議との各国アカデミーとの異同をどう認識しているか？
 - * 学術会議は、求められている役割をどれだけ果たしていると自己分析しているのか。
 - * 会員・連携会員からはどのような意見が出されたのか。
 - * 4/22 報告は「会員・連携会員に加えて国内外からも意見を徴して検討した」とのことだが、会員以外の科学者、経済界等のステークホルダーからは、どのような意見や期待が寄せられたのか。
 - * 科学技術の進展や経済社会の変化等に伴い、H27 以降、日本学術会議に求められる役割にはどのような変化が生じているという認識か。
-
- 4/22 報告においてこれまでの国際活動の成果が列挙されているが、こうした活動の成果をどう評価しているのか。
 - * 科学者個人や各学会等ではなく日本学術会議でなければならない活動なのか、コストと見合った成果か等の観点からはどのように評価しているのか。
-
- 4/22 報告では、「直近の個別的な政策課題に具体的な意見や選択肢を提示する活動」を含みつつも「広い視野に立った社会課題の発見や、中長期的に未来社会を展望した対応のあり方の提案が期待されている」と記述されている。このような認識に至る過程で、どのような議論がなされたのか。
 - * このような役割を果たすために、どのような改革が必要か議論がされたのか。
 - * 俯瞰的・中長期的な課題の設定に当たり、行政や産業界等のステークホルダーとは、どのように認識のすり合わせを行っていく考えか。たとえばカーボンニュートラルについては、どんなコミュニケーションが図られたのか。
 - * 「学協会との役割分担を踏まえた日本学術会議の提言活動を進めていきたい」とされているが、具体的にはどのような役割分担を考えているのか。
 - * 結果として、委員会・分科会単位の提言等は減少すると見込んでいるのか。テーマ設定に当たってのコミュニケーションや、学術会議内部でのリソースの配分

は、組織としてどのようにマネジメントしていく考えか。

○4/22 報告では、研究者コミュニティ、行政、産業界等との双方向のコミュニケーションの重要性が指摘されている。これまで、日本学術会議において行われてきたアカデミーの意見の集約、情報提供、科学的助言等には、どのような問題があったと分析しているのか。

○学術会議に求められる役割を果たすために必要な会員が、現時点では、バランスよく、かつ過不足なく、選出されているという認識か。

○選考プロセスの透明化にとどまらず、第三者委員会の設置等により選考そのものに外部の目を入れるべきとの指摘もあるが、どう考えるか。4/22 報告の取りまとめに当たり、そのような議論はなされたのか。

○4/22 報告では、各国アカデミーに共通して認められるとされる「ナショナルアカデミーの5要件」が列挙されているが、具体的にどのような比較検討が行われたのか。

* 組織形態の独立性と活動面での政府からの独立性との関係(国の機関であることに伴う制約)をどう考えるか。

* 国家財政支出による安定した財政基盤と、活動面での政府からの独立性との関係(必要な資金を集める努力を行えない制約)をどう考えるか。

* 例えば、国立大学も外部資金の獲得などを通じた財政基盤の強化が求められているが、学術会議が国家財政支出による安定した財政基盤を求めることとの関係をどう整理するか。

○H27 有識者会議でも現在の制度を「変える積極的な理由は見出しにくい」という結論になっているが、当時の議論の経緯は必ずしも明確でない。今般、日本学術会議においては、どのような議論・検討が行われたのか。

○4/22 報告以降の取組みについてどう評価しているか。

* 報告に書かれている内容は組織構造やルールの変更など形式的な事項に関する記載に留まっているとの指摘もあるがどうか。

* カーボンニュートラルなど俯瞰的・中長期的な課題については、パッケージとして取り組んでいくとのことだが、例えば、新設した「連絡会議」での活動などを通じて、学術会議として今後、どのような成果を念頭に、どのようなスケジュールで取組を進めていくのか。

○学術会議の活動全体や個別提言等について、どのような形でフォローアップしているのか。また、フォローアップをどう生かしているのか。